



2026年 3 月期 第 2 四半期（中間期） 決算補足説明資料

2025年11月7日

 黒崎播磨株式会社

（証券コード：5352）

1. 2026年3月期第2四半期決算の概要（連結）

2. 経常利益増減要因分析

3. セグメント別業績（連結）

4. 耐火物セグメントの概況

5. ファーネスセグメントの概況

6. セラミックスセグメントの概況

【本資料中の数値表示について】

特段の注記がない場合、金額表示は表示未満単位を切り捨て、百分率は小数点第2位を四捨五入し小数点第1位までを表示しております。

2026年3月期第2四半期決算の概要(連結)

単位：億円

	FY2024_2Q	FY2025_2Q	前年同期比	
売上高	880.9	884.0	+ 3.1	+ 0.4%
営業利益	62.8	74.2	+ 11.3	+ 18.1%
経常利益	65.4	80.0	+ 14.6	+ 22.4%
純利益 (*1)	41.6	107.4	+ 65.8	+ 158.1%
R O S (*2)	7.4%	9.1%	+ 1.6pt	
R O E (*3)	9.4%	21.8%	+ 12.4pt	
R O I C (*4)	7.3%	8.3%	+ 1.0pt	

事業環境

- ・ 国内粗鋼生産量 (FY2025_2Q) 4,008万トン (前年同期比▲4.2%)
- ・ 世界粗鋼生産量 (CY2025_1月～9月) 13億7,380万トン (前年同期比▲1.6%)
- ・ インド粗鋼生産量 (CY2025_1月～9月) 1億2,240万トン (前年同期比+10.5%)

(*1)：親会社株主に帰属する純利益

(*2)：売上高経常利益率

(*3)：自己資本利益率

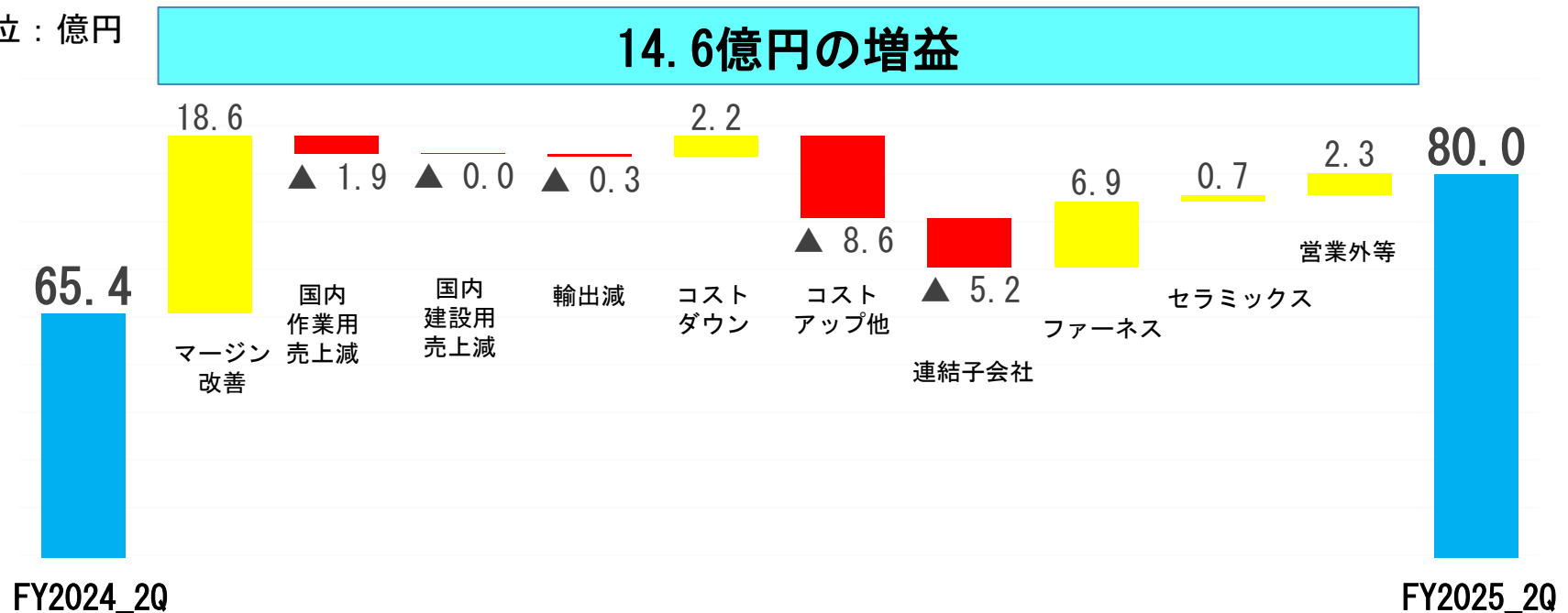
(*4)：投下資本利益率

経常利益増減要因分析

[FY2024_2Q vs FY2025_2Q] (連結)

国内外での粗鋼生産量減少や円高の進展に伴う円換算利益の目減り影響を受ける中、生産性向上・歩留まり改善等自助努力によるコストダウン施策に加え、耐火物事業における原料・エネルギー価格等コスト上昇分の着実な販売価格転嫁及びインドでの拡販等を進めたことにより、耐火物事業は前年同期比で増益。また、ファーンネス事業における要員効率化等のコストダウンや資材等コスト上昇分の着実な価格転嫁及び工事案件増加により、ファーンネス事業も前年同期比で増益。全体でも前年同期比で14.6億円の増益。

単位：億円



経常利益増減要因分析

[FY2025_上期 vs FY2025_下期] (連結)

マージン改善に加え、インドを中心とする海外事業の拡大や生産性向上・歩留まり改善等自助努力の更なる追求により、収益改善を見込むものの、為替差益等上期に発現した一過性利益の剥落により、全体として10億円の減益を見込む。

10億円の減益

単位：億円



セグメント別業績(連結)

単位：億円

		FY2024_2Q	FY2025_2Q	前年同期比	
耐火物	売上高	752.7	750.1	▲ 2.6	▲ 0.4%
	セグメント利益	55.5	61.1	+ 5.6	+ 10.2%
ファース	売上高	81.8	90.8	+ 8.9	+ 11.0%
	セグメント利益	2.9	9.8	+ 6.8	+ 228.0%
セラミックス	売上高	37.5	41.2	+ 3.6	+ 9.8%
	セグメント利益	1.1	1.9	+ 0.7	+ 61.9%
不動産他	売上高	8.6	1.9	▲ 6.7	▲ 78.1%
	セグメント利益	3.0	1.3	▲ 1.7	▲ 56.8%
合計	売上高	880.9	884.0	+ 3.1	+ 0.4%
	セグメント利益	62.8	74.1	+ 11.3	+ 18.0%

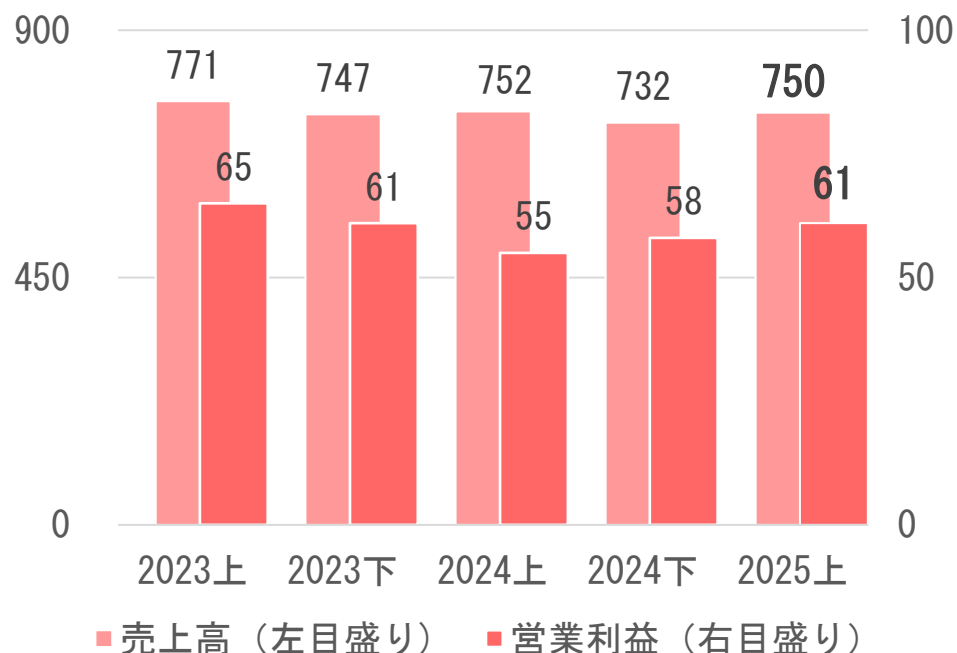
各セグメントの売上高は外部顧客への売上高であり、セグメント間の内部売上高又は振替高は含まれていません。また、セグメント利益は営業利益ベースです。

耐火物セグメントの概況

業績推移

単位：億円

	FY2024_2Q	FY2025_2Q	前年同期比	
売上高	752.7	750.1	▲2.6	▲0.4%
営業利益	55.5	61.1	+5.6	+10.2%



業績レビュー

- 国内外での粗鋼生産量減少に対して、原料・エネルギー価格等コスト上昇分の着実な販売価格転嫁及びインドでの拡販等を進めたことにより実力ベースでは増収となったものの、円高の進展に伴う円換算売上高の目減りにより、減収。利益は、マージンの改善に加え、生産性向上・歩留まり改善等の自助努力によるコストダウン施策を進めたことにより増益。

今後の取り組み

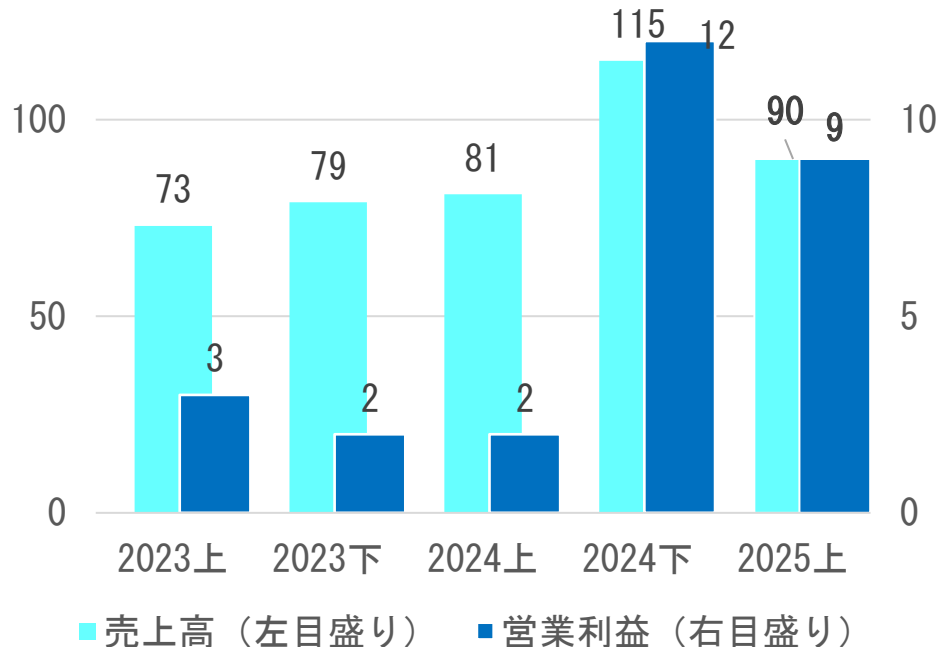
- 国内は自動化・省力化やDX推進、技術力を活かした新商品の市場投入により競争力を更に高め、収益基盤をより強化する。
- インドでは拡大する需要を確実に捕捉すべく生産能力増強を進める。
- 欧州・米州ではアライアンスパートナー企業と当社製造・販売拠点との連携深化により一層の事業収益拡大を目指す。

ファースセグメントの概況

業績推移

単位：億円

	FY2024_2Q	FY2025_2Q	前年同期比	
売上高	81.8	90.8	+8.9	+11.0%
営業利益	2.9	9.8	+6.8	+228.0%



業績レビュー

- ・ 工事案件の増加に加え、要員効率化等のコストダウンや資材等コスト上昇分の着実な価格転嫁を進めたことにより、増収増益。

今後の取り組み

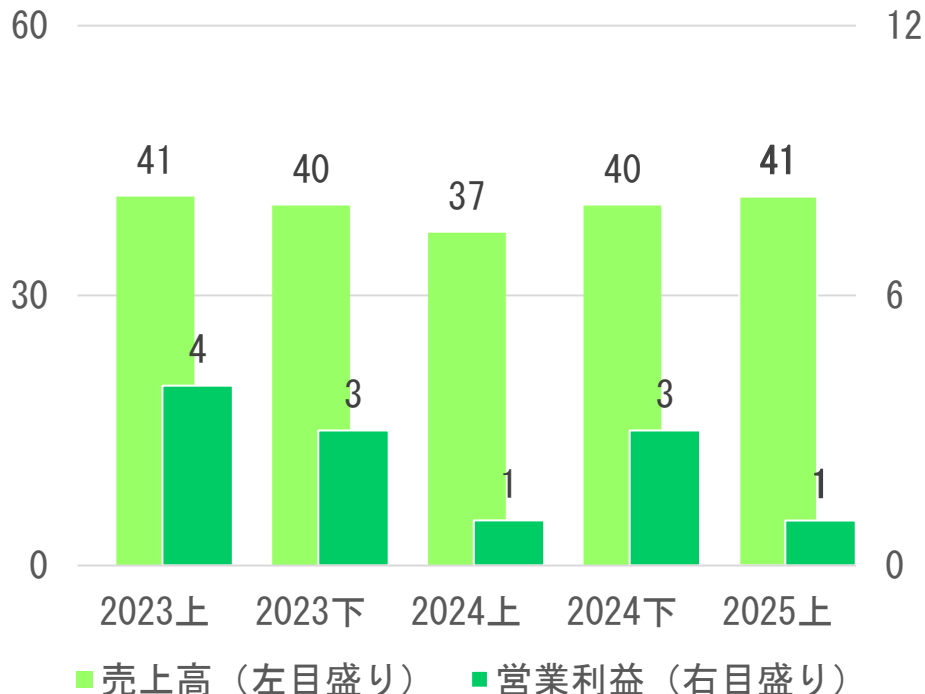
- ・ 大型工事案件の確実な捕捉、製鉄設備整備作業の継続受注及び要員効率化等のコストダウンにより、収益力向上を推進する。
- ・ 省エネ工業炉の設計・施工に加え、バイオマスを含む発電用ボイラ及び焼却炉等、非鉄ユーザー向けのメンテナンス・新規案件の受注により、収益を拡大する。

セラミックスセグメントの概況

業績推移

単位：億円

	FY2024_2Q	FY2025_2Q	前年同期比	
売上高	37.5	41.2	+3.6	+9.8%
営業利益	1.1	1.9	+0.7	+61.9%



業績レビュー

- ・ 電子部品向け材料の受注が回復したこと等により、増収増益。

今後の取り組み

- ・ 半導体業界団体の米SEMI*は7月に、半導体製造装置の売上高が2026年に過去最高の1,381億ドル（20兆円強）に達するとの予想を公表。
当社は半導体露光装置向けを中心に拡大する需要を確実に捕捉する。
- ・ 環境分野向け断熱材、電子部品向けセラミックス材、宇宙・医療等の新規分野向け製品等、各分野での拡販により収益を更に拡大する。

(*) S E M I : 国際半導体製造装置材料協会



<https://www.krosaki.co.jp/>



本資料は、金融商品取引法上の開示資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。